

令和6年8月29日  
農 林 水 産 部

報道関係者各位

## メディア向け「双子果対策実証事業」説明会の開催について

今年のさくらんぼは、昨夏の高温の影響で双子果が多く発生し、収量が大幅に減少する要因の一つとなりました。そこで、県では、別紙のとおり、現地において双子果対策の実証に取り組んでいます。

つきましては、双子果の発生軽減対策の生産者への普及を図るため、この取組みを周知くださいますようお願いを願います。

なお、下記のとおり、遮光資材の被覆や樹上散水の取組みについての説明会を開催いたしますので、取材をご希望の場合は、9月4日（水）17時まで下記の間合せ先にお申込みください。

### 記

- 1 日 時 令和6年9月5日（木） 13:30～14:00
- 2 場 所 天童市高木 須藤淳哉氏さくらんぼ園地  
※園地までご案内しますので、JAてんどう成生支所駐車場  
（天童市大字成生918番地）に、13:15まで集合してください。
- 3 内 容  
（1）遮光資材の被覆による双子果の発生軽減対策について  
（2）樹上散水による双子果の発生軽減対策について
- 4 その他 当日の連絡先：公用携帯080-2819-9565



#### 【問合せ先】

山形さくらんぼブランド力強化推進協議会事務局

（山形県農林水産部 園芸大国推進課）

課長補佐（果樹振興担当） 伊藤 祐幸

Tel:023-630-2453

【報道監】 農林水産部次長 高橋 和博

## 双子果対策実証事業について

今年のさくらんぼは、昨夏の高温の影響で双子果が多く発生し、収穫量が大幅に減少する一因となった。そこで、双子果の発生軽減効果が期待される遮光資材や樹上散水設備の導入と普及を図るため、現地での実証に取り組んでいる。

### 1 遮光資材の被覆による双子果対策の実証

#### (1) 目的

これまでに、遮光率 45%以上の遮光資材を花芽形成期に被覆することで、翌年の双子果の発生を軽減できることが明らかとなっている。しかし、遮光率が高いほど花芽が小さくなるため、遮光率の低い資材も加えて双子果の発生を軽減する効果について実証を行う。

#### (2) 内容

花芽形成期に、遮光率 25～30%の白色遮光資材と遮光率 45～50%の白色遮光資材を、雨除けハウスの一部（南北向きハウスの西面、東西向きハウスの南面など）に設置し、温度低減効果や双子果の発生軽減効果について調査する。

#### (3) 実証圃設置数

県内 16 園地 31 か所

（東南村山地域 8 か所、西村山地域 8 か所、北村山地域 9 か所、置賜地域 6 か所）

#### (4) 調査内容

気温、花芽温度、双子果発生率、花芽の大きさ

### 2 樹上散水による双子果対策の実証

#### (1) 目的

花芽形成期の高温時に樹上散水を行い、園地内の温度低下や、双子果発生軽減の効果について実証を行う。

#### (2) 内容

花芽形成期である 8 月～9 月初旬の高温時に樹上散水を行い、園地内の温度低下効果や、それによる双子果の発生軽減効果について調査する。

#### (3) 実証圃設置数

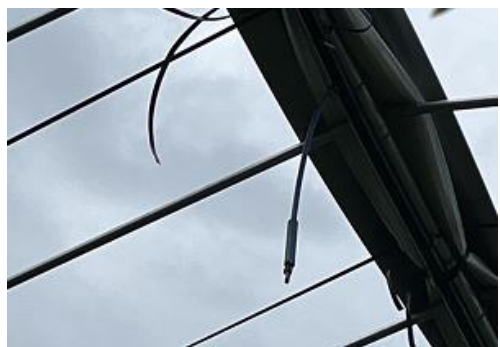
県内 4 園地 （東南村山、西村山、北村山、置賜の各地域に 1 か所）

#### (4) 調査内容

気温、双子果発生率、花芽の大きさ



遮光資材を被覆した雨除けハウス  
（右半分を被覆）



樹上散水ノズル  
（雨除けハウス上部に設置）